月桃（げっとう）通信 No25　2021 年５月 26 日

野の花を見よ　　石原艶子

イラスト：大城旋律（孫）

☆人類の文化とは何か、文明とは何であるのか考える機会をくれた神に感謝する。真の人類共通の文化遺産は、平和と相互扶助の精神である。それは我々の心の中に築かれるべきものである。（中村哲）

☆愛は決して滅びない。喜ぶ者と共に喜び泣く者と共に泣きなさい。（新約聖書）

〈沖縄の五月〉・・・・野に咲く白百合の花は人間が作り出したどんなユリの花よりも清楚で美しく、香りも柔らかい。イジュの花は山々を彩り、月桃の花は里を彩っている。然し、少しずつ自然は変化し、咲く時は早まり、月桃の花は小さな虫のため弱り、街路樹のアコウの木、我が家の庭のアコウの木も病気になって葉は茶色に枯れ、葉を落し枯木のようになってしまった。あんなに緑いっぱいで勢いがあったのに何故なの？沖縄の県花デイゴは、青い空に映えて美しく輝いて入学、卒業のシーズンを色取り沖縄中を祝福していたのに、もうずい分昔から一部の所にしか咲かなくなってしまった。空気が汚れて熱くて苦しいね、虫がいっぱい寄ってくるよ。海水温も高くなって苦しいね、サンゴや魚たちの声なき声が聞こえてくる。もう限界だよ!! お隣の台湾は深刻な干ばつに苦しんでいる。沖縄も雨が少なく熱い。すべての生き物が人間に警告を発している。コロナはやむにやまれずやって来たのに違いない。沖縄では五月の連休に、どっと観光客が押し寄せてコロナ感染者が急増し、ついに５回目の緊急事態宣言が６月２０日迄発令されて、すべての団体行動は引き続き休止となった。然し辺野古の工事は休みなく続行され、かさ上げ工事４メートルへと急ピッチで進められている。大浦湾だけは絶対に手をつけないで！という私達の叫びも空しく、政府は「辺野古移設が唯一選択肢」を繰り返すだけ。しかし私は大浦湾の埋め立ては出来ないと思っている。オリンピックを「やめます」とは絶対に言わないことと同じで、誰一人責任を負う者はいない。「今もうかればよい」人々は金に群がり、次世代の子供達に取り返しのつかない負の遺産を残していくのだ。

野の花がどのように育つのか、注意してみなさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし言っておく、栄華を極めたソロモンでさえこの花のひとつほどにも着飾ってはいなかった。（新約聖書マタイ６：29）

野の花は語りかけます「わたしを見て！目を止めて！何ときれいなんだと感じてほしい！人間性をとりもどして愛することを始めてほしい、愛ある政治を始めてほしい」と。

〈米中対立の中で〉・・・・コロナ禍の苦難の中にありながら、昨年の世界の軍事費は過去最大であったと報じられています。日本は米中の覇権争いに巻き込まれ、沖縄のすべての基地とこれから造られる、宮古、石垣のミサイル基地は、まさに日米安保の最前線、沖縄はまたもや琉球処分の悲劇を負うのでしょうか。軍隊となった自衛隊は、米軍にフランス軍も加わって共同軍事訓練を加速させています。今後はイギリス、オーストラリアなどの国々も加わって中国包囲網を作り、軍事力の強化こそが戦争を防ぐ抑止力だと言うのです。武器を持たない平和を語る私達少数者のことを権力者はナンセンスだと一笑します。然し

私は確信しています。「武器を持つ者は武器で滅びる」と。「殺してはならない」これが人間を創造された神の命令であり、人が人として生きる唯一の道なのです。

《うるま市長選敗北》4 月 25 日の市長選の結果は 1800 票差での敗け。投票率は過去最低の 55,49%でした。心を一つに力を合せみんな頑張りました。選挙戦の中で心に残っていることがあります。街頭演説の折、テルヤ市長候補が声をつまらせながら「こんなにも多くの人が私を支援し応援してくれていることに私は感動しています。私は幸せ者です、皆さん本当にありがとう」と真心こめて感謝を述べられたのです。人は厳しい選挙戦のさ中で感傷的、ナンセンスと一笑するかもしれない、でも私は教育者テルヤさんの温かい人間性を感じ、たとえ選挙に負けても人間として勝っているとその時思ったことが忘れられません。そしてもし市長になったら弱き者に優しい市政をして下さると確信しました。然し現実はお金と力の世界、企業の力を総動員し国の支援を受け、巧みに選挙戦を展開し票固めの戦術にたけた相手候補の勝利でした。選挙戦の総括の中でいくつかの問題点、反省点は出てはきましたが、負けはしても変化への新しい風は確実に吹き始めました。市議に若いシングルマザーの女性が当選し、女性議員は三人となりました。保守基盤の強固なうるま市に吹いた風はやがて大きな風となって《もっとつながれば、もっとよくなる、支え合う町づくり》へと、貧困の子供達、若者達を助ける市政へと変わっていくひとつの時となったと思います。選挙資金ゼロでの出発でしたが、うつぐみの会、あみの会、月桃通信とから少しでも資金援助が出来たことは感謝でした。協力下さった友人皆様に心から感謝し、これからもこの 3 つの会がみんなの心を結び合せ、小さくても平和をつくる連帯の会として共に成長していきたいと願い祈っています。

《日本という国の重い罪とミャンマーの今》

ミャンマーに今起きていることに心を痛めても、心のどこかで遠い国の、自分とは関係ないことと思ってはいませんか。私は昔、ミャンマーのことは何にも知りませんでしたがある時「ビルマの竪琴」という映画を観ました。その時初めて日本がフィリピン、インドネシアはじめ南シナ半島の国々でも戦争をして、ビルマの国で多くの日本兵が戦死し、ビルマの国を破壊してきたことを知りました。映画の中で水島上等兵の奏でる竪琴の悲しい音色と兵士たちが歌っていた「埴生の宿」の歌声が悲しく、戦争の悲惨さを今も伝えてくれます。映画の中で、敗戦して日本兵はビルマから日本へ引き上げることになりました。その時水島上等兵は唯一人日本に帰らずビルマに残り、戦死した仲間達の遺骨を拾い集め、戦争の犠牲となったビルマの人々の遺骨を拾い、弔いをして、ビルマの大地を歩き続けたのです。（竹山道雄の小説ですが実在の人物がモデルであったと言われています）この水島上等兵の心をこそ、今、私たちが自分の心とすることが最も求められている重要なことだと私は思うのです。ミャンマーの民主化を妨げている軍事政権、ミャンマー国軍は何故今も力を持ち、国を混乱させ不幸にしているのでしょうか。その原因が日本にあることを知って衝撃を受けました。キリスト者平和ネットニュースレター№216 の中に、マイノリティー宣教センター共同主事、渡邊さゆりさんが書いている一部分を紹介致します。『リンチ、レイプ、略奪、拉致、拘束、遺体遺棄がない日は一日もありません。ミャンマー国軍は自国の民衆を実弾で殺しました。――少数民族の居住地域への空爆、砲爆が激化―――無裁判による死刑、一日 500 人の殺害予告など――敵意と殺意が国を覆っています。―――<u>これら虐殺は日本と密接に繋がっています。ミャンマー国軍は戦争中に日本軍へ抵抗するために結成されました。日本軍が行った数々の暴力こそ国軍の暴力の根です。日本企業からの富は国軍に流れ続けてきました。</u>―――』この事実を私達日本人は知っているでしょうか。近代史を学ばない（学ばせない）戦後教育の中で育った私達戦後世代はビルマのことなど何にも分

らず唯、経済的価値、国益でしか考えてきませんでした。日本企業が得ている富はミャンマー国軍を強化させ、民主化を妨げ、民衆を苦しめる結果を招きました。私達日本人の豊かな生活は、このようにミャンマーやアジアの国々の犠牲の上に成り立ってきたという事実と、今私達は向き合わなくてはなりません。76 年前の戦争の罪が今もこうしてミャンマーの現実としてあらわにされていることに罪の恐ろしさを思わずにおれません。**罪の払う報酬は死です。（新約聖書ロマ書６：23）**軍事力で立つ国は軍事力で滅びる。これが歴史の事実であり、教訓なのです。今こそ日本企業は真正面から向き合い、国益を損ねたとしてもミャンマー国軍との利益関係を断ち切って、ミャンマーの民主化と平和のために行動することを私は切に求めます。沖縄の戦いはミャンマーの民衆の戦いと一つにつながっています。軍隊の要らない平和を私達は求めているだけなのです。軍隊は暴力を生み出す元凶です。ミャンマーの平和は私たちの平和、ミャンマーの苦しみは私たちの苦しみ、人類はみな地球家族、差別と分断、力の支配はあってはなりません。あの水島上等兵のように一人一人が共に苦しみつつ共に闘い祈り続けましょう。必ず平和が訪れることを信じて。

☆地元辺野古の仲間たち―――地元辺野古で生活する数人の仲間が、忍耐強く、そっと座り込みに参加し、私たち外部からの者を励まし支えて下さっています。辺野古の顔なる島袋文子さんは足腰弱られても尚健在で、大きな存在感で私たちを励まし続けて下さっています。そしてKさんこそはテント村を縁の下で支えて下さっているかけがえのない人なのです。偉そうなことは何も言わず、黙々とテントを修理し、細やかな心遣いをしてテントを守って下さっています。特に台風の時は大変な労力です。テントを全部はがします、そしてまた張り直します。誰に頼まれた訳でもなく黙々と担って下さる姿に私は感動し、感謝でいっぱいです。テント村はKさんなしでは存在しないと私は思っています。いつの世も正しい人は少数です。辺野古の少数の人の真実がこの運動を支えている事実にこそ、私たちの目が開かれて、自分たちがイニシアティブを執るのではなく、共に生きる道をこそ見い出し、お互いに信頼、尊敬し、感謝する関係を作っていくことが大切だと思うのです。それこそが中村哲さんが生きた平和相互扶助の精神につながっていると思います。神に喜ばれ、祝福された人、平和をつくる人とはKさんのことだと私は思い胸が熱くなります。悲しみの涙をいっぱい流したからこそ溢れ出る人への愛、平和への思いは誰よりも強く豊かなのだと思います。1996 年から続く長い辺野古の闘い、その歴史、歩みの中で何人もの人たちが亡くなっていかれました。病み、疲れる人も多くなり、さまざまなほころびも生じてきています。そんな今だからこそ、今は亡き辺野古のおじい、おばあ達の思いに心を合わせて決意も新たに、沖縄の民の心の声を叫び続けていきましょう。そして基地が完成したら、今よりさらに爆音は増し、環境は悪化し、苦難を最も負わされるのは地元の住民であることを私たちは決して忘れてはなりません。辺野古新基地反対闘争は何があろうとも地元住民と共にあり続けることが大切なのです。私は辺野古住民と「基地は要らない」と共に叫びたいと切に願い、神が辺野古住民を特別に省みて下さることを祈ります。

《お願い》辺野古基金のために

〇つながる力うつぐみの会（福生市在住：大野悦子）

着物リサイクルマスク　一枚 200 円　　着物リサイクル袋　500 円

〇あみの会　糸リサイクル作品制作中　　※リサイクル着物、各種リサイクル糸求めています!!

〈連絡先〉〒904-1115　うるま市石川伊波　1180-5　石原艶子　携帯：090-4471-1942

〈振込先〉ゆうちょ銀行　記号：12260　番号：12650271　イシハラツヤコ